

山口大学医学部附属病院

‘第6回 ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラム’終了後アンケート

5:大変そう思う 4:ややそう思う 3:普通 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない

回答人数 15人

**モジュール 1:エンド・オブ・ライフ・ケアにおける看護**

	5	4	3	2	1
1) 講義の内容はわかりやすかったですか。	13人	2人	0人	0人	0人
2) 講義の内容は臨床で遭遇する問題の解決につながると思いましたか。	14人	1人	0人	0人	0人
3) 講義で使用したスライドはわかりやすかったですか。	12人	2人	1人	0人	0人
4) 講義の内容に関心・興味がもてましたか。	12人	3人	0人	0人	0人

5) 講義の内容印象に残っていることがあればご記入ください。

- ・エンドオブライフケアのアセスメントについて、トータルペインや基本的態度についてわかりました。
- ・エンドオブライフケアにおいて看護師は「なにかをする」ことだけでなく「共にいる」ことが重要である、ということは私自身普段意識していたため改めて大切な考えであると思いました。
- ・患者に何かをすることを重要視していましたが、色々な考え方や方法があることを学べたことがよかったです。
- ・QOL の観点からアセスメントしていくことが大切であることが理解できました。
- ・【患者と共にいること】病室に行くといつも、何か患者に喜ばれることをしないと、と思っていました。共にいるだけで、という一文がのこります。
- ・エンドオブライフケアをしていくにあたって、本当に他職種とチームで関わっていくことの重要性がわかりました。
- ・見捨てられたと感じさせない様に、寄り添い共にいる事。転院などで『見捨てられた』と言われたことがあり、これからもそう感じさせない様に関わっていきたいです。
- ・寄り添うことが大切。関わり合いそのものがケアである。
- ・患者と家族を 1 単位として捉えて関わっていくこと。
- ・エンドオブライフケアにおいて、看護師は何かをすることだけでなく、患者さんや家族と共にいることが重要である、ということが印象的で、自分が何も出来ていない無力感を感じる時があったが、常に人に寄り添う姿勢で居続けたいと思えました。また、日本における寿命は伸びているが健康寿命が低下している、ということに対して、日本人にとっての健康とは？幸せとは何なのかと考えました。皆さまに意見を聞いてみたいです。

6) 講義の内容で理解が難しかったことがあればご記入ください

- ・ケアリングの要素について、実践していくことが難しく、意識しながら自分はできてるかなと確認して行こうと思いました。
- ・精神面とスピリチュアルなアセスメントの違いは難しいと感じました。
- ・どれも参考になりました。

5:大変そう思う 4:ややそう思う 3:普通 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない

回答人数 15人

## モジュール 2: 痛みのマネジメント

	5	4	3	2	1
1) 講義の内容はわかりやすかったですか。	13人	2人	0人	0人	0人
2) 講義の内容は臨床で遭遇する問題の解決につながると思いましたか。	14人	1人	0人	0人	0人
3) 講義で使用したスライドはわかりやすかったですか。	13人	2人	0人	0人	0人
4) 講義の内容に関心・興味をもてましたか。	15人	0人	0人	0人	0人
5) 講義の内容印象に残っていることがあればご記入ください。					
<ul style="list-style-type: none"><li>・痛みの評価は、自分は苦手なので学んだことを日々の業務の中で生かして行こうと思います。</li><li>・オピオイドの違いや効果についてよくわかっていない部分があったので、勉強になりました。</li><li>・トータルペインを理解すること、正しい薬物の使用とケアについて理解できました。</li><li>・当院で行っていることは、間違いではないのだと確認できました。</li><li>・痛みの性状から神経学的分類が判断できること、痛みだけで色々な因子と繋がっていて、鎮痛薬も多岐に渡り、さまざまな視点でアセスメントが必要な奥が深い内容だと感じました。</li><li>・痛みの緩和のバリア、、、まさに今の職場で起こっている事で、医療スタッフのバリアが少しでも軽減されるように私を含めて頑張っていきたいです。</li><li>・患者の全人的苦痛を理解することの大切さを学びました。コミュニケーションで主観的な痛みを、客観的に表現できるように援助すること。</li><li>・痛みを緩和するために、患者さんや家族に教育を行うことの重要性がわかりました。患者さんの痛みを少しでも緩和するためには、ただ薬剤投与すればいいのではなくて、本人の痛みや薬についての認識を理解し、本人と共に原因の理解・目標設定・治療計画を考えることが大切。</li><li>・疼痛緩和の薬剤と薬剤の使用方法和時間の間隔です。</li><li>・薬だけではなく、精神的な緩和やマッサージや体位の工夫など。病棟でももっと取り入れたいと思いました。</li></ul>					
6) 講義の内容で理解が難しかったことがあればご記入ください					
<ul style="list-style-type: none"><li>・高齢者や認知の低下がある方のアセスメントは難しく、疼痛コントロールできていないんじゃないかと思うこともあります。学んだことがいかせるようにしていきます。</li><li>・上記の内容が難しいです。医師の考えていることまで理解しないといけないので。</li></ul>					

5:大変そう思う 4:ややそう思う 3:普通 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない

回答人数 15人

### モジュール 3:症状マネジメント

	5	4	3	2	1
1) 講義の内容はわかりやすかったですか。	14人	1人	0人	0人	0人
2) 講義の内容は臨床で遭遇する問題の解決につながると思いましたか。	15人	0人	0人	0人	0人
3) 講義で使用したスライドはわかりやすかったですか。	13人	2人	0人	0人	0人
4) 講義の内容に関心・興味をもてましたか。	15人	0人	0人	0人	0人
5) 講義の内容印象に残っていることがあればご記入ください。 ・実際の症状マネジメントについてのケアを学び、実践して行こうと思いました。また病棟でも伝達していけるようにしたいです。 ・色々な側面から症状をアセスメントすることが大切であると改めて実感しました。 ・ステロイドは臨床でもよく使うので、理解が深まって良かったです。 ・症状に対する思いや症状が及ぼす影響について理解ができ、効果的な治療とケアについて知識を得ることができた。グループワークで幅が広がりました。 ・日々の業務で、行っていることのよい確認となった。 ・食欲不振と便秘についての項目がとても印象に残り、学びが深かったです。できるケアや必要な情報が沢山あることがわかり、普段どれだけ浅い情報収集をしているかわかりました。 ・下剤のアドヒアランスを高める事。消化器内科にいる為、またオピオイドを使っておられる患者さんも多くいる為、日々考えていますがより一層、考え頑張っ行こうとおもいました。 ・症状の個人的な意味に焦点を当てるのが大切であること。 ・治療と同時にケアを効果的に取り入れ、症状緩和に努めること。					
6) 講義の内容で理解が難しかったことがあればご記入ください ・アセスメントの視点について、学ぶことが多く、そこまでみれていなかったなど感じることもあったので視点を広げていけるようにしていきたいです。					

回答人数 15人

### モジュール 1・2・3:ケーススタディ

	5	4	3	2	1
1) ケーススタディは講義の内容を理解するうえで参考になりましたか。	14人	1人	0人	0人	0人

## モジュール 4: エンド・オブ・ライフ・ケアにおける倫理的問題

	5	4	3	2	1
1) 講義の内容はわかりやすかったですか。	12人	3人	0人	0人	0人
2) 講義の内容は臨床で遭遇する問題の解決につながると思いましたか。	13人	1人	1人	0人	0人
3) 講義で使用したスライドはわかりやすかったですか。	13人	2人	0人	0人	0人
4) 講義の内容に関心・興味をもてましたか。	14人	1人	0人	0人	0人

## 5) 講義の内容印象に残っていることがあればご記入ください。

- ・倫理の4原則にそって援助していきたいと思いました。
- ・倫理の4原則について学び、それぞれ違う価値観を持っていることを認識しながらいろんな想定をし、意思決定ができるよう調整したり思いの表出ができる場を提供したりしていくことの大切さを学びました。
- ・倫理の4原則に照らし合わせて考えていくことの重要性を学びました。またそれぞれの価値観によって倫理観が変わることを学びました。
- ・価値観やニーズを把握すること、倫理の4原則から倫理問題を考えていくことを学びました。
- ・4原則を学ぶことにより、ケアを考えるためのツールを知ることができました。これまで、倫理は嫌だなと避けていたが、今回、興味を持ってました。
- ・倫理的問題をそうだと認識するために、自分の無意識な偏見があることを理解すべきということのほども勉強になったし、念頭に置いとかなければ行かない大切な事だと感じました。
- ・倫理の問題は本当に難しいです。倫理の4原則、IC、ACPについても興味深かったです。そして、『尊厳ある死』ではなく『尊厳をもって死に至るまで生きること』の文言がとても心に残りました。
- ・倫理的問題は日々感じているので全体的にとっても勉強になりました。
- ・エンドオブライフケア(のみに限らず全ての過程においてですが)において、私たちは倫理的問題によく直面します。何かモヤモヤ、ジレンマを感じた際は、倫理の4原則や、益と害の評価などに照らし合わせながら、患者さんにとって最もよい方向になることを目指していきたいです。
- ・尊厳をもって死に至るまで生きること。その人の性格や思い(管に繋がれて死にたくない)などをご家族と考えて行きたいと思いました。

## 6) 講義の内容で理解が難しかったことがあればご記入ください

- ・患者の意思が確認できない場合、家族や代理の方と意思決定していくことになると思いますが、現場でも悩む事例があります。何度もみんなでカンファレンスをしたり、家族と話し合っ決めていくことになりませんが、話し合うことも家族や患者の納得していく過程で必要な時間になっているのかなと思いました。

5:大変そう思う 4:ややそう思う 3:普通 2:あまりそう思わない 1:全くそう思わない

回答人数 15人

モジュール 5:エンド・オブ・ライフ・ケアにおける文化への配慮

	5	4	3	2	1
1) 講義の内容はわかりやすかったですか。	11人	4人	0人	0人	0人
2) 講義の内容は臨床で遭遇する問題の解決につながると思いましたか。	11人	3人	1人	0人	0人
3) 講義で使用したスライドはわかりやすかったですか。	11人	4人	0人	0人	0人
4) 講義の内容に関心・興味をもてましたか。	13人	1人	1人	0人	0人
5) 講義の内容印象に残っていることがあればご記入ください。					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人それぞれ生まれた場所や育った環境が違い、文化もそれぞれあるためお互い理解し合い認め合うことの大切さを学びました。</li> <li>・文化についてあまり意識をしていなかったのが、全体的に学ぶべきところが多かったです。</li> <li>・日々の業務で、文化を考えることがなかったので、改めて学ぶことができ、良かったです。</li> <li>・例え同じ日本人でも出身や地域によって考え方が異なることは頭に入れておかないといけないなど改めて気付かされました。</li> <li>・健康に関する信念をアセスメント出来ず日々働いていると、再確認しました。これからはとても重要な事なので必ず取り入れて患者さんをアセスメントして行こうと思います。</li> <li>・相手が自分とは違う価値観や文化的背景があることを理解し、配慮したケアが大切だと学びました。</li> <li>・自分でも無意識のうちに、日本の文化というものの中で価値観を形成していることに気づきました。グローバル化が進む中、柔軟な思考を持って、さまざまな価値観や文化を尊重して関わっていきたいです。</li> <li>・当院のことですが、内科が主で多職種チームもたくさんいなく、手話ができる方もいればいいとも思いました。</li> </ul>					
6) 講義の内容で理解が難しかったことがあればご記入ください					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の周りは大体同じ文化の方ばかりなので実感したことがないので分からなかったですが、地域や県外に出たりすると感じるのだろうなと思いました。</li> <li>・文化的側面からのアセスメントは普段無意識なのか、遭遇したことがないのか、なかなか理解が追いつかず、難しかったです。</li> <li>・文化に配慮する。というのがなかなか難しいなと思いました。</li> </ul>					

回答人数 15人

モジュール 4・5:ケーススタディ

	5	4	3	2	1
1) ケーススタディは講義の内容を理解するうえで参考になりましたか。	13人	2人	0人	0人	0人